

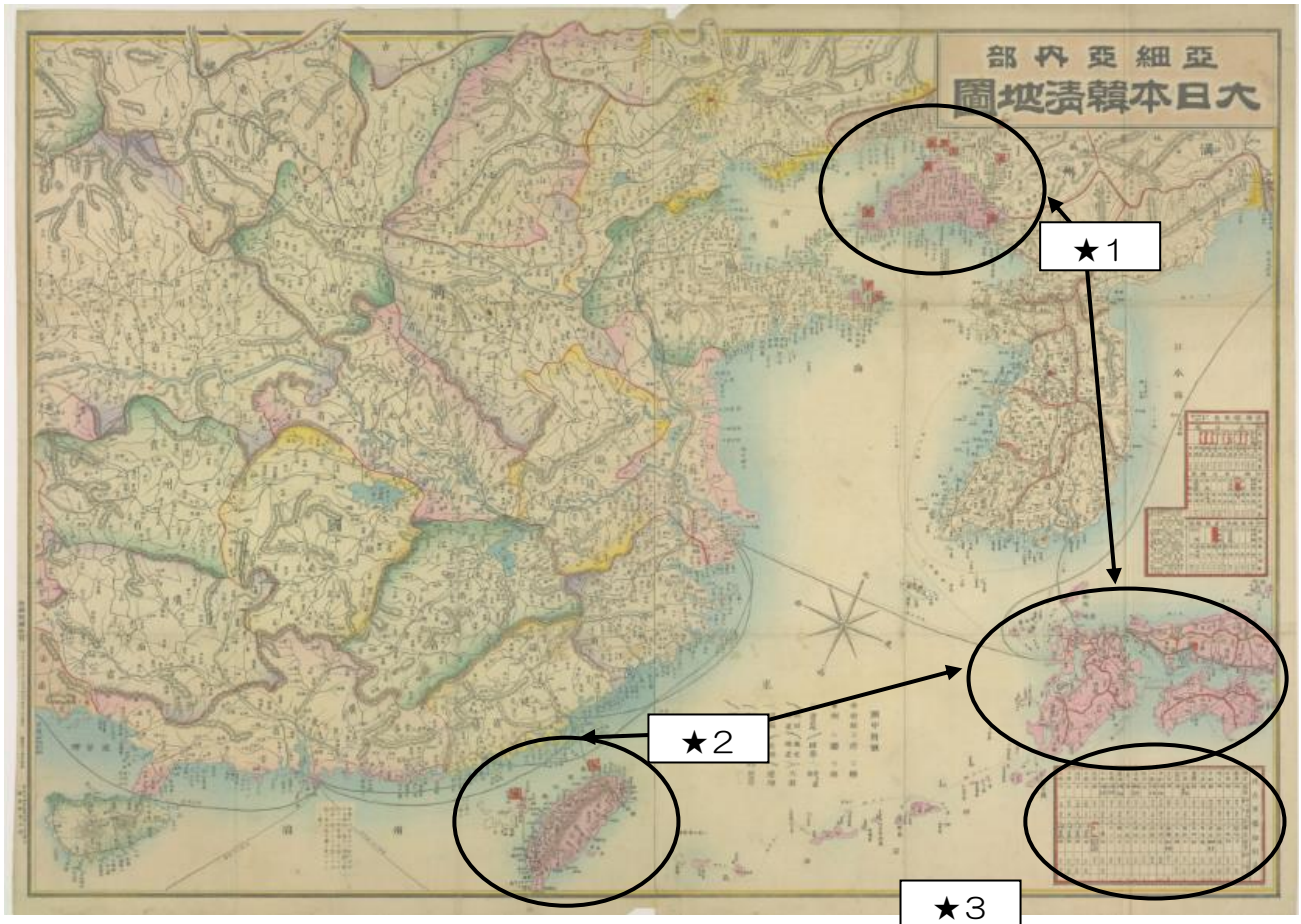
授業で使える図書館所蔵地図

NO. 31 『亞細亞内部大日本韓清地図』

作成年：1894（明治27）年

サイズ：53×74cm

作者：嵯峨彦太郎



【解説】 日清戦争前後のアジアの様子

19世紀の地理観をよくあらわしている東アジアの地図である。特に、日本、朝鮮、清、満州の領土関係があらわされ、帝国主義となった日本の領土が拡大されていることがうかがえる。

清は、東アジアや東南アジアなどへ侵略を進めるイギリスやフランスとの争いに敗れ、アジアでの地位に変化がおこりはじめた。また朝鮮を巡る日清の対立が高まり、1894年に日清戦争で清は日本との戦いに敗れた。清は下関条約で朝鮮の独立を認め、遼東半島や台湾などを日本へ割譲するが、遼東半島は日本に対する欧州の三国干渉により還付されている。このできごとは、日本国内では大きな屈辱として扱われ、ロシアに対抗しようとする思いを大きくしていくきっかけにもなった。また、三国干渉後にロシア、イギリス、ドイツ、日本、フランスなどの列強は次々と清の領土を租借し、朝鮮は1897年に大韓帝国として独立を果たした。この独立により、朝鮮半島史上初めて他国の干渉から解放されることになった。

